

【コラム】



「大切にしたいのは自尊感情」

失敗経験や注意、叱責を受けることが積み重なると、「どうせ私なんか・・・」「そんなの、できっこない」という気持ちが生まれてきます。そうならないように、小さな支援を積み重ね、児童生徒が、「できる自分」「がんばっている自分」「大切にされている自分」を実感できるようにしましょう。

苦手なことや難しいことは支援を受けながらやり遂げる経験を積めるようにするとともに、一人でできることを増やしたり、自分から必要な支援を求めたりする力を付けていくことが大切です。そのための方法や手段を身に付けていくことも必要です。発達障害の子どもたちは、一時的に集団や社会への適応が悪くても、適切な指導や支援の積み重ねで、ほとんどが問題なく社会生活を送ることができるようになります。

特別支援教育支援員は、発達障害以外の障害のある児童生徒を支援することも多くあります。

それらの児童生徒は、通常の学級に在籍している場合と特別支援学級に在籍している場合があります。どちらの場合も、児童生徒が「できること」と「できないこと」を見極めることが必要です。「できることは見守る」ことに徹し、できないことに対してスモールステップで支援し、児童生徒が、「自分でもできそう」「自分でやってみよう」と感じるすることが大切です。そのためには、学級担任との連携が重要です。特に、特別支援学級在籍の児童生徒の支援を通常の学級で行う場合は、特別支援学級担任と「何をどこまでするのか」を打ち合わせしておきましょう。一人でできることは見守り、できないこともできるだけ自分の力で行うように励ましながら最小限の介助・支援を心がけましょう。



具体的な支援の方法については、
「すべての教員のための特別支援教育ハンドブック」

（香川県教育委員会特別支援教育課 令和7年3月）が参考になります。

香川県教育委員会特別支援教育課のHPに掲載しています。

<http://www.pref.kagawa.jp/kenkyoui/>



5

特別支援教育支援員研修会での アンケートより

特別支援教育支援員研修会でのアンケートより、支援のコツ、おすすめアイテム、心に残るエピソードを紹介します。

(1) 支援のコツ

- ・ちょっとした隙間時間に担任とコミュニケーションをとる。
- ・特別支援教育支援員同士で情報交換をし、うまくいったことを共有する。(情報共有の時間を決めておく)
- ・すぐに支援をするのではなく、状況に応じて待つ姿勢も大切にし、必要な支援のみ行う。
- ・児童生徒の問題行動に対して、子どもの立場に立って考える。
- ・子どもの興味のあるものを知っておく。(キャラクター等)
- ・休み時間、子どもとの会話を大切にする。
- ・笑顔であいさつをする。
- ・褒めたり、傾聴したりする姿勢を大切にする。
- ・子どもの行動や支援についてのメモをとる。(保管・処分の仕方を決めておく)

～記録は支援の第一歩～

効果的な支援につながるメモの取り方の例



【メモの項目】

きっかけ
いつ・どこで・どんな状況で

子どもの行動

支援・結果

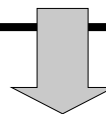
子どもの問題行動には必ず原因や目的があります。原因や目的が分かれば支援方法を検討することができます。

6 / 3

Aさんが体育の時間にドッジボールをしている途中でパニックになっていた。



パニックになったことは分かるが、きっかけは…？
何時ごろ？



6 / 3

13:40

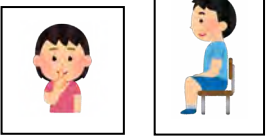
Aさんが体育の時間ドッジボールで負けると、怒って友達に砂を投げパニックになった。
場所を変えて10分ほど見守ると落ち着いた。



きっかけ
時刻
行動
支援・変容

★うまくいかなかった支援は変え、
うまくいった支援は続けましょう。

(2) おすすめアイテム

アイテム	こんな時に使うと便利
【電子メモ・付箋・ホワイトボード】 	担任の先生の指示が伝わっていない時に、電子メモや付箋で手順を示す等、子どもの手元で確認します。 授業中、文字を思い出せない子どもに、書いてそっと示します。 電子メモはボタン1つで消すことができるので便利です。
【鉛筆削り・消しゴム等の文房具】 	「先生、赤鉛筆削ってもいいですか。」 「先生、消しゴムを忘れました。」 文房具の準備が十分ではなく、スムーズに学習に取り組むことができない子どものために、文房具の予備を持っておくと便利です。
【灰色のペン】 	支援者が文字を書き、子どもに文字をなぞらせる場合に使います。灰色のペンなので、目立たず、消しゴムで消しても消えません。
【絵カード】 	特別支援教育支援員が声を出して注意できない場面では、「しー静かに」等の絵カードを見せることで子どもに意識付けをすることができます。 よいことをしている時には花丸カードをそっと見せることも効果的です。
【写真をラミネートしたもの】	授業の準備物等、持ち物の写真を撮ったものをラミネートして持っておくと、さっと見せることができ便利です。視覚的な支援が効果的な子どもにとって写真をラミネートして提示すると、特別支援教育支援員が余計な声を出さずに支援することができます。
【シール・スタンプ】 	約束を守れた時や子どもが頑張った時に、ごほうびシールやスタンプを使うと意欲を高めることができます。 学級担任の先生と、ごほうびシールやスタンプを使用する際の基準を話し合っておきましょう。
【砂時計・タイマー】 	活動に取り組む時間をタイマーで示すことで、見通しをもって取り組むことができます。 我慢や気持ちの切り替えが苦手な子にとって、残り時間が視覚的に示されることは有効な支援となります。
【ポシェット・ウエストポーチ】 	ペン・ハサミ・のり・メモ用紙等、支援道具一式を入れて持ち運べるようにしておくと、いざというときに役に立ちます。
【ハンドサイン】 	アイテムではありませんが、「オッケー」や「いいね」の笑顔とハンドサインは子どもにとって嬉しいものです。

(3) 心に残るエピソード



教育現場で、日々子どもたちと関わる特別支援教育支援員の心温まるエピソードを紹介します。



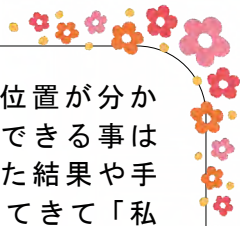
担当している子どもとの関わり方に悩むこともありましたが、担当している子どもが困ったり、嫌なことがあったりした時に、遠くに離れていても自分のところに来てくれた時は嬉しくなりました。次年度担任が替わり、「最近子どもが落ち着いているよ。去年の関わりがよかったからやね。」と言ってもらえた時には、今年も頑張ろうという気持ちになりました。(こども園)

支援員として保育の場に初めて入らせていただいた時は不安でいっぱいでした。担当の子どもは、入所したばかりで、集団生活も初めての子でした。表情も硬くクラスに入れず、この子をどのように伸ばしていけばいいのか悩んでいました。

しかし、最近是可以ることが増え少しずつ馴染めるようになってきて、楽しそうにしている様子を見ることも増えました。保育者が1対1で接することで、子どもはいくらでも伸びるんだと嬉しく感じました。今後もしっかり子どもに寄り添い少しずつ成長していく姿を見守っていききたいと思います。(保育所)

言葉が未発達で入園当初は話せる単語は数えるほど。活動が始まっても保育室に入れず、思いが通らなければ大声で泣いたり怒ったり……。発表会に向けて練習からは必死で逃げようとする日々が続きました。よく考えてみると、言葉や歌が理解しにくく苦痛を感じる時間だったのだらうと思います。その後、言葉や歌の理解が進むにつれて、歌や教師との話がとても好きになり、安定して過ごせるようになりました。(幼稚園)

幼稚園で関わっていたAさん。小学生となり、1年生の幼小交流で年長児が小学校のふれあい交流に参加する際、Aさんは「〇〇先生、僕の机ここやで。」と自分の席や使っている筆箱等を教えてくれました。コロナ禍でしばらく疎遠になっていましたが、5年生になったAさんの運動会を見に行った時に、私のことは覚えていないだろうなと思っていたと、「僕、先生のこと覚えています。〇〇先生ですね。」と話し掛けてくれました。Aさんの記憶の中にまだ、私の記憶が残っていたことに驚き、同時にとても嬉しく感じました。(幼稚園)

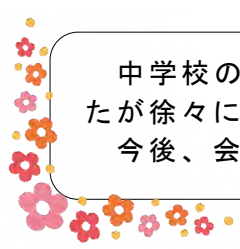


支援員として働き始めた頃のことです。支援員としての自分の立つ位置が分からず、試行錯誤の日々を送っていました。支援員の私が子どもたちにできる事は何だろうかと悩みつつ、いろいろと試してみるものの、はっきりとした結果や手応えを感じることができず、悩んでいました。ある日、一人の子が寄ってきて「私は将来、先生になることが夢なんで。前で授業をする先生ではなくて、〇〇先生みたいに後ろから助けてくれる先生になりたい。」と言ってくれました。理由を聞くと、「だって先生がいてくれたら心強いやん。」と笑顔で答えてくれました。その言葉と笑顔を今でもはっきり覚えています。自分がしていることは子どもたちの支えになっているのだと嬉しくなりました。(小学校)

支援員4年目になります。入学間もない子どもたちの中には不安を抱えていることも多く、3～4人は登校を渋る姿が見られます。毎朝、教室に行く前、靴箱付近を見ることにしています。お家の方と離れることができず、泣き顔で立ちつくす子ども。「一緒に行こう。」と声をかけ、さしのべた私の手をぎゅっと握り返してくれます。1年生の子どもは、まだまだ園児に近く、手をつなぐと安心するようです。自称「学校のおばちゃん」として温かく子どもたちに寄り添っていければと思います。(小学校)

落ち着かないと教室から飛び出す。プリントをぐちゃぐちゃ、鉛筆をボキボキ、教科書をビリビリ。声をかけても無視されたり暴言が返ってきたり…。毎朝、出勤するのが辛い1年でしたが、3学期の終わりに小さいメモで「いつも一緒にいてくれてありがとう。」というメッセージをくれました。1年間の辛いことが吹き飛ぶ、とっても嬉しい言葉で涙が出ました。(小学校)

中学生なので、自分でできるようにと見守ることが多くなりがちですが、卒業時に「後ろにいてだけで安心した。」と伝えてくれたことが印象的でした。直接手助けするだけでなく、そばでいることで支えになるのだと教えてくれて嬉しかったです。(中学校)



中学校の支援員として勤めていますが、最初は意思疎通が全くできませんでした。が徐々に笑顔を見ることができ、一緒に話す時間をもてるようになりました。今後、会話がが増えていくことを楽しみにしています。(中学校)



教室から飛び出す子どもには、どのような支援をすればよいですか。

まずは、子どもの安全を確保し、落ち着いて対応しましょう。危険を伴わない限り、抑えたり、ひっぱったりする等、体に触れて止めるのではなく、「次は、〇〇さんの好きな体育だから行こう。」等、声掛けをして子どもの意識を変えましょう。校内のどこまでなら行ってもよいか、特別支援教育支援員が教室から出るときの合図、声を掛けるタイミング、教室外で困った時の連絡方法等、事前に担任に確認しておきましょう。



スキンシップの多い子どもには、どのような対応をすればよいですか。

特に低学年の児童の中には、おんぶや抱っこ、ひざに座る等、身体的な接触を求めてくることがあるかもしれません。スキンシップは子どもの心に安心感を与えることがあります。小さな子どもが相手でも、過度なスキンシップは周囲の誤解を生む場合がありますので、ハイタッチや握手をする等、適切なスキンシップに変えていくとよいでしょう。

また、心の性と体の性の異なる子どももいます。自分と同性だから大丈夫だと思いつまらず、適度な距離感を心がけましょう。



攻撃性のある子どもへは、どう対応すればよいですか。

暴力的な言葉を発する子どもへは、「〇〇という言葉ではなく、くやしい、悲しいように、自分の気持ちを伝えてください。」等と、別の伝え方や表現の仕方を教えましょう。また、周りで関わる大人も丁寧な言葉を遣うように心掛けましょう。教師や、特別支援教育支援員がいる場面で、友達に手が出てしまったら間に入って被害が広がらないようにしましょう。一旦、静かな場所でクールダウンさせ、子どもが落ち着いてから、カッとなった原因や行動について振り返るとよいでしょう。



授業中、いつも姿勢がよくない子どもがいます。どのように声を掛けたらよいですか。

発達障害の特性で、姿勢の保持が難しい子どもがいます。

「足を床につけて」「背筋を伸ばして」「手はひざ」等、常に注意ばかりでは子どもがしんどくなります。発達障害の特性を理解した上で、足をつける場所が分かるようにシールを貼ったり、姿勢のいい時にすかさず褒めたりすることで、子どもがよい姿勢のイメージをもてるようにします。



特別支援教育支援員による支援を嫌がる子がいます。どう関わればよいですか。

高学年や中学生になると、周りの目が気になって、特別支援教育支援員による支援を拒否する子がいます。子どもの成長から考えると珍しいことではありません。嫌がる子どもに無理に支援に付いても効果は期待できません。

まずは、学級全体をサポートする姿勢で、学級の子どもたちとの人間関係づくりから努めましょう。焦らず子どもと接していきましょう。



集会の時、耳をふさいでいる子がいます。どう支援したらよいですか。

聴覚過敏、視覚過敏、味覚過敏、触覚過敏、さまざまな感覚が過敏な子がいます。周りが思っているより、本人は辛い場合があります。苦痛を取り除くような環境整備や、本人に寄り添った支援をしましょう。

集会の時に耳をふさいでいる子は、特定の音やマイク等の反響音が苦手なのかもしれません。耳栓やイヤーマフを使用する等、担任の先生と相談して支援しましょう。



授業参観や学校行事の時は、どのような支援をすればよいですか。

学級担任は、支援対象の児童生徒の保護者と、特別支援教育支援員の支援の入り方について確認しておきましょう。「他の保護者の前では支援してほしくない。」と保護者が希望する場合があります。学級担任が予め特別支援教育支援員に支援方法を伝えておきましょう。



愛着の問題を抱えている子どもには、どのように関わればよいですか。

愛着の問題を抱えている子どもの中には、発達障害の特性をもつ子どもと似た行動をとる子どもがいます。

一概には言えませんが、愛着の問題を抱えている子どもは、気持ちや行動にむらが見られることがあります。

発達障害の子どもが不適切な行動をした時に、その行動を取り上げないように（計画的無視）すると、不適切な行動が減っていくことがあります。愛着の問題を抱えている子どもの場合、逆効果となり、欲求がエスカレートしてしまうことがあります。同じ不適切な行動でも、対応の仕方は変わります。

不適切な問題行動の背景に、愛着による問題があるのか、発達障害があるのか、障害特性に応じた対応を考える必要があります。複数の目で実態把握をし、校内委員会等で支援を検討するようにしましょう。

※反応性愛着障害：親やその代理となる人と愛着関係がもてず、人格形成の基盤において適切な人間関係をつくる能力に障害があるもの。誰にも心を許さない「抑制型」と、誰に対してもなれなれしく接する「脱抑制型」がある。

【コラム】

特別支援教育支援員に大切にしてほしい

4つのT



伝える

- 伝えたいことが「伝わる」ために、
 - 肯定的な表現をする。
 - 具体的に示す。
 - 一つずつ声を掛ける。
 - 理解できる言葉を使う。
 - 視覚的情報をプラスする。



つながる

- 該当児童生徒の信頼できる支援者としてつながるために、
 - 話をよく聞く（傾聴）。
 - 児童生徒の気持ちや考え等を受け止める（受容・共感）。
 - 適切な心理的距離を保つ。
 - 最小限の支援、介助を心がける。
- 担任等の教員とともに一貫した支援をする支援者としてつながるために、
 - 担任等の教員が示す支援を理解し、行う。



つなげる

- 該当児童生徒と周囲の児童生徒とをつなげるために、
 - 接し方のモデルを示す。
 - 該当児童生徒の気持ち等を代弁する。
- 該当児童生徒と担任等の教員とをつなげるために、
 - 該当児童生徒のよい言動や、困っていた場面等を伝える。
- 該当児童生徒と学習をつなげるために、
 - 個に応じた学習方法を身に付けられるように支援する。
- よりよい支援につなげるために、
 - 記録を残す。



立ち位置・立場

- 授業中は、不要な刺激とならないように動きに気を付ける。
- 安全が確保できる位置・距離で見守る。
- 担任等の教員のサポート役として業務を遂行する。
- 学校のチームの一員として務める。
- 守秘義務を厳守する。

文部科学省受託事業「発達障害のある児童生徒等に対する支援事業」

特別支援教育支援員とともに 効果的な支援を行うための手引

2025 年 3 月発行

香川県教育委員会事務局特別支援教育課

〒760—8582 香川県高松市天神前 6 番 1 号

TEL 087-832-3757 / FAX 087-806-0232

URL <http://www.pref.kagawa.jp/kenkyoui/>

E-mail tokubetsushien@pref.kagawa.lg.jp

